

症例解析&文献評価ワークショップ 2018：脂質異常症

～患者に個別化した科学的根拠のある処方提案をするために～

日本アブライド・セラピューティクス（実践薬物治療）学会では、薬物治療を科学的、客観的に評価するための基礎となる症例解析能力、文献評価能力、および情報検索能力の向上を目的として、「科学的・合理的に薬物治療を実践するためのワークショップ」を開催しています。今回は脂質異常症をテーマとして5月19日（土）、20日（日）に開催します。症例解析および文献評価の各コースで当日取り上げる内容についてご紹介いたします。

症例解析コース

症例1：過去に心血管病を経験している高齢患者を取り上げ、現行の脂質低下療法の効果と副作用の評価と、心血管病の二次予防を目的としたよりよい治療計画の検討を行います。

症例2：まだ心血管病を経験していない患者を取り上げ、心血管病の一次予防を見据えた脂質管理療法の検討を行います。

取り組む内容：

はじめに患者基本情報の正確な把握を行います。これには臨床検査所見の生理的意義や正しい読み方などを含みます。

患者基本情報を把握したのちに、各患者が現在抱えている問題点をリストアップします。ここでは、適切な問題リストを作成するための考え方を学びます。

問題リストを把握した後はその中の脂質異常症に焦点をあて、薬物治療評価のプロセスに準じたステップ・バイ・ステップのディスカッションを行います。

これらのステップでは最新の診療ガイドラインやその他信頼のおける三次資料の情報も参照しますが、そこにとどまらず、薬剤師の重要な視点である臨床薬物動態学理論に基づいた評価という点も強調しながら学びます。最終的には自分の評価内容に基づいた推奨治療の提案内容をまとめ、S・O・A・P形式で記録に残します。

期待される成果：

患者さんの長期的な治療利益（真の治療目標）や、治療過程における副作用・相互作用リスク、薬物治療の経済性などに目を向けた治療評価のプロセスを習得することが期待されます。

加えて、国内外でやや異なる脂質異常症診療ガイドラインの正しい使い方や、薬物動態/薬力学（PK/PD）理論に基づいた用法・用量提案などに自信を持てるようになることも期待される成果です。

（明治薬科大学 小川竜一）

文献評価コース

文献1 HOPE3 study (N Engl J Med. 2016; 374: 2021-31.) : 心血管疾患非発症の心血管リスク中等度の患者において脂質低下療法 (ロスバスタチン) の一次予防効果を検討した試験の評価を行います。

文献2 MEGA study (Lancet. 2006; 368: 1155-63.) : 冠動脈疾患, 脳卒中の既往のない日本人高コレステロール血症において, プラバスタチンの冠動脈疾患一次予防効果を検討した試験の評価を行います。

取り組む内容 :

文献評価を行う上ではエビデンスレベルの高い論文を読み説くことから始まります。今回取り上げる論文はいずれも 1 万人前後の患者を対象にした大規模ランダム化比較試験で、世界的にも有名な雑誌である N Engl J Med と Lancet に掲載された論文を取り上げます。

演習では文献評価チェックリストを用いて、デザイン、統計、患者背景、図表、アウトカムの定量、試験の強み・弱みについて、演習問題を解きながら考えていきます。

2 日目の検討は小グループに分かれてのディスカッション形式で行います。皆さんの議論を促し、理解を補足するためにプリセプターをそれぞれのグループに配置しサポートを行いながら議論を進めていきます。さらに、症例コースの患者症例を題材として臨床試験の結果を当てはめられるかを考えます。

期待される成果 :

薬効を客観的に評価する力、文献を批判的に読む力、文献の結果を実際の患者さんに応用する力を身につけることが期待されます。

例えば、統計的な有意差は臨床的に意味がある？実際の患者さんで同じ効果が得られる？日本人の患者さんに当てはまる？LDL コレステロールはどのくらい下がると効果がある？一次予防ではどのくらいの用量が効く？どの程度安全？などの疑問に答えられるようになります。

2017 年に日本動脈学会より動脈硬化性疾患予防ガイドライン改訂版が発行されていますが、今回題材とする文献はいずれもガイドライン作成の根拠になっています。このような文献を読むことでガイドラインの理解も深めていきます。

(獨協医科大学 藤田朋恵)